



愛媛県立新居浜南高等学校

〒792-0836

愛媛県新居浜市篠場町 1-32

TEL 0897-43-6191

FAX 0897-44-7447

昭和 25 年愛媛県立新居浜西高等学校中萩分校として開校。

昭和 39 年愛媛県立新居浜南高校設立。平成 8 年普通科募集停止、総合学科新設

個性豊かで広い視野をもち、心身ともに健全な人間を育成することを目標とする。個性や適性に合った科目を履修し、高齢化・情報化・国際社会化された社会に対応できる主体的な学びや個性を磨いて自己実現できる態度を育み、地域と結びついた教育活動を推進して社会貢献する態度を育成する。

学級数：9 生徒数 355 総合学科（人文科学系・自然科学系・福祉サービス系・国際教養系・情報系
スポーツ科学系）

より積極的に、活かしたボランティアを

VYS 部の活動（36 名）

児童センターや福祉施設でのイベントの手伝いや募金活動を行っている。異年齢の人たちとの交流でコミュニケーション能力が向上し思いやりの心が育まれた。

福祉サービス系

VYS 部と重複しているところは多いが、将来のための実践の場として、児童センターや福祉施設を訪ねることが多い。

家庭クラブ

地域の民話読み聞かせ団体「民話の里すみの」と協力して、年 1 回紙芝居を制作し、地域の小学校にて、民話の伝承活動をしている。新居浜地方の民話のもとより、香川県の民話や平家物語、今年は広田村へ出向いて行って話を聞く。校内でも興味を持ってくれる生徒が増えることを願っている。



小学生に絵本の読み聞かせ

ユネスコ部（8 名）

2011 年、情報科学部からユネスコ部へ名称変更。

別子銅山の歴史、残された近代化産業遺産を調べ、別子銅山の観光ガイドをしている。メディアで紹介され、数多くの賞を受賞した。ガイドブックも作成、別子銅山を多くの人に知ってもらい、町づくりに役立てている。近年、新居浜市内の小学校が別子銅山に遠足、観光ガイドの依頼がたくさん来るので、8 名がフル回転で活躍している。

異年齢の集団と接することによって、学ぶことがたくさんある。自分が必要とされているという実感を得ることができて、ボランティア活動が将来へ道を広げてくれると信じている。



ユネスコ部 ペルーへ行く



愛媛県立新居浜工業高等学校

〒792-0004

愛媛県新居浜市北新町 8-1

TEL 0897-37-2029

FAX 0897-37-6440

昭和 12 年 4 月愛媛県立新居農業学校に乙種機械科を併置し、愛媛県立新居農工学校と改称、昭和 23 年 4 月学制改革に伴い愛媛県立新居浜工業高等学校となる。

新居浜市及び周辺市において唯一の工業高校であるため、四国中央市や西条市からも通学する。専門性のある科目を履修し技術者として社会に出る生徒が多い。

ものづくりをとおして高い専門性を身に付けさせるとともに、豊かな人間性を備えたたくましく生きる生徒を育成することを目標としている。

学級数：15 生徒数：504 機械科・電子機械科・電気科・情報電子科・環境科学科

専門性を生かして空飛ぶ車椅子活動



平成 16 年、新居浜市の立川地区で台風 16 号が猛威を振るった。そのとき災害復旧ボランティアをしたのが始まりで、以後、1 年生が毎年台風シーズン前に立川地区を訪問し、急斜面の水路の清掃や林道の泥や草木などのごみを除去している。地域の人の要望も多く「必要とされている、役に立っている」と感じている生徒も多い。

また、生徒会活動の一環として福祉委員会が、児童センターで催しの準備や運営、片づけなどを手伝っている。

工業高校ならではの特色ある活動は、VYS 部の空飛ぶ車いす活動である。廃棄処分されるはずの古い車いすを譲り受け、修理・再生して、車いすの不足している地域の福祉団体や韓国に寄贈している。

車いすを必要としている多くの人の役に立ち、自分の持っている技術を活かしてのボランティアであるため、とてもやりがいがある活動である。また、車いすの必要な福祉施設や韓国等には生徒が持っていくことにしている。

利用者からの声に直接耳を傾けることができるとともに、高校生として高齢者・障害者とふれあういい機会になっている。

韓国へ運ぶ時は運搬費がかからないよう、修学旅行のときに車いすを運ぶなどして、工夫している。

高校生が積極的にボランティアに参加することによって、メディアに取り上げられ、多くの人に知ってもらえる活動となり、車椅子を修理することによって、社会に役に立っていることを知る。お礼の言葉や励ましの言葉は、将来への礎となるだろう。

今後、この活動を本校だけではなく、県下の工業高校や地元の中学校・高校へも広げていきたいと考えている。





愛媛県立新居浜商業高等学校

〒792-0821

愛媛県新居浜市瀬戸町 2-16

TEL 0897-43-6736

FAX 0897-40-3383

昭和 35 年 4 月 旧県立農村建設青年隊舎を校舎とし開校する。

輝く自分をみつけ、地域に愛され地域に尽くすことを目標にかかげ、確かな学力と豊かな心をはぐくむ教育に努力を重ねている。

昭和 43 年から実施されている精神的活動として、朝は「決意の黙」1 日の終わりは「反省の黙」と呼び、姿勢を正して静かに目を閉じ 1 分間黙想、本校の伝統として受け継がれている。

学級数：12 生徒数：408 商業科・情報ビジネス科

社会人となるための学びの場として

活動は、地域から学校へ募集依頼があり、全校生徒に呼びかけるとい形がほとんどである。

福祉関係に進路を決めている生徒は、地域の児童センターでの「夕涼み会」や「こどものつどい」での運営補助や、近隣の新田保育園で行われる親子の集い「ひまわりの集い」に参加して、1 日保育園児と交流をする。

また、新居浜市内の介護施設で 2 泊 3 日のボランティアに参加しているが、インターンシップの役割も果たしており生徒にとっては意義のある活動となっている。

生徒は最初から積極的にはいかないが、活動の回数が増えるにつれ自分から声をかけ、周りを見て行動できるようになった。

新居浜市主催の「笑顔甲子園」へは全校生徒の中から希望者が運営補助で参加する。運営スタッフで参加することでイベントで遊ぶ楽しさより、裏方をする大切さを知ることができる。仕事に対する考え方もかわってくる。



ボランティア活動は、進路について学びの場となるだけではなく、異年齢の人とかかわることで、コミュニケーション能力が育ち、他者の気持ちを考える心の教育につながっている。

卒業後、すぐに就職する生徒が 7 割を占める本校では、ボランティア活動を通して、社会人としてのスキルを学んでほしいと考えている。



愛媛県立西条高等学校

〒793-8509

愛媛県西条市明屋敷 234 番地

TEL 0897-56-2030

FAX 0897-56-2059

明治 29 年、愛媛県尋常中学校東予分校として創立。

昭和 30 年、愛媛県西条高等学校と改称。

自ら学び、自ら考える力の育成、心身ともに健全な生徒の育成、特別活動の充実と情操教育の推進を指導目標に、質の高い文武両道を目指して、自ら考え、たくましく生きる力を培うことに重点をおいている。

学級数：28 生徒数：929 普通科・商業科・定時制 (H25.5.1 現在)

お堀の中に佇む学校として清掃活動

「地域共生プロジェクト」の一環で、幼稚園訪問や清掃奉仕活動、「クリーンえひめ」の活動として地域清掃を実施している。

部活動生徒や生徒会役員が、毎朝始業前に大手門（正門）やお堀周辺を清掃している。西条高校は、「西条祭り」の会場にもなるので、祭りの前後にも 1 年生全員と生徒会、部活の生徒等有志で清掃している。地域の方々にも、学校の方から「一緒に清掃しましょう」と呼びかけているが、積極的に参加してくれる人が少なく、学校からどのように地域へ呼びかけていくかは今後の課題である。

JRC 部（Junior Red Cross 青少年赤十字）では、毎夏、市内の老人福祉施設と交流会をしている。事前に計画し、入念に準備して当日を迎える。入居者の方も、毎年、この訪問を心待ちにしてくださっているようだ。



お堀周辺、祭り翌朝の清掃風景



福祉センターにて



老人福祉施設にて

生徒も、「楽しんでくれてとても嬉しかった」「お年寄りに逆に癒された」「来年もぜひ来たい」という感想だった。

また、西条市の福祉センターにて、車いすの講習会を受け、文化祭で「車いす体験」のブースをつくった。そこで全校生徒に呼びかけ、実際に体験してもらって、障害のある方への配慮等レクチャーした。

毎年、障害者のワークキャンプ等にも参加している。

高校生にとっては、ボランティア経験は必要だと思うが、校外からの募集の要請が多くて困ることもある。学生の本業である勉強や部活動、各種の模試試験に支障が出ることを心配してお断りすることもあるが、できる限り活動を支援していきたい。



愛媛県立西条農業高等学校

〒793-0035

愛媛県西条市福武甲 2093 番地

TEL 0897-56-3611

FAX 0897-56-3613

大正7年 文部省令より設立認可

大正8年 愛媛県立西条農業学校開校式

人権を尊重し、個性と能力を伸ばす教育活動を展開する中で、「生きる力」を育て、知・徳・体の調和のとれた個性豊かな人材の育成に努める。また、各学科の学習を通して専門的な知識・技能を習得し、質実として勤労を愛する生徒を育み、地域社会に貢献することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：299 食農科学科・環境工学科・生活デザイン科

おい。千町の棚田にいくよ！

平成17年、棚田が全国的なブームとなり、各地で棚田活動が実施されるようになったことと、千町地区の人口減や耕作放棄地が目立つようになったのを見て活動が始まった。当時は千町地区の広い棚田を借りて耕作し、蕎麦や米の栽培やコスモスの種を蒔いたり、うっそうと茂った竹林を伐採し竹炭を作り配ったりしていた。

現在は、40アールほどの棚田を13枚借りて、道路沿いの方では米を、山の中腹にあるは蕎麦を栽培している。棚田の役割、環境保全、先人の知恵を学ぶことで、元気なふるさと作りに貢献したい。

以前は200戸あった千町地区の集落だったが、今は40人ほど、70歳以上の高齢者が多い。西条市内まで20分の場所、兼業農家がほとんどであったが、管理の難しさから、棚田を放棄してしまった人は町に住むようになった。棚田は傾斜もきつく、農道は狭いところが多いので、高齢者だけではとても作れない。

そばの栽培は年2回ほどする。棚田にいくたびに、全校で希望者を募って、だいたい10名～30名の生徒が参加する。毎回、メンバーは違うが、管理しているのはものづくり部の生徒たちである。

4月の収穫のときには、地元の高齢者とボランティアの人（平成17年に市の広報でボランティアを募った、そのときの名残りの人）、生徒で会食をする。始めた頃は、吹奏楽部が演奏してくれたこともあった。



いつもは、静かな場所であるが、高齢者は高校生が来ると、にぎやかになると喜んでくれる。

食農科学科は棚田を耕し米の栽培をしている。また、環境工学科の生徒は測量をして石垣をつくり、蕎麦の栽培をするなど、専門分野の学習が活きている。

地域のことを知らない生徒に、このような活動から生まれ育った町を好きになってもらえればと思う。

また、家庭クラブは、老人ホームを訪問して掃除や庭木の剪定、イベント補助や高齢者との交流を20～30年継続して活動している。

社会事業に参加することで自分を見つめることができ、ボランティアをすることで自分作りにつながると信じている。